活動中のプロジェクト

各プロジェクトチーム
随時メンバー募集中！

興味を持った方、
気になった方は気軽に
お問い合わせください

オーガニックファーム

石狩市にある、「はるきちオーガニックファーム」と連携し、畑をフィールドとした活動を通して、人と人、人と自然の循環やつながりを伝える活動を行っているチームです。

Radio

環境情報や活動情報などを発信していくためにコミュニティ FM やインターネット放送を行っているチームです。現在、FM アップル（76.5Mhz）で毎週月曜日 19:30～20:00 放送中。

ROCK THE FARM
ー新琴似ふれあい農園ー

新琴似にある農園で１区画借りながら、農園の運営管理のお手伝いと、人と人のコミュニケーションを生み出す活動をしているチームです。

サイクルシェアリング poro-cle

自転車利用のマナーの向上、自転車とエコ、地域経済振興などを考え、社会に提案していくためのチームです。
現在、2011 の活動に向けて準備中。

2011年何かしたい方へ

上記のプロジェクト以外にも様々な活動に関わることが可能です。また、やりたいことを企画・提案してくれてもOK！
まずは、ezorock 事務局にご相談ください。お待ちしております。

Information

ボランティア募集　15th TOYOTA BIG AIR 環境対策

氷点下の札幌の夜を興奮と感動に包み込んできた世界最大級のスノーボードストレートジャンプコンテスト、TOYOTA BIG AIR。
ezorock は 2010 年より会場内での環境対策活動を展開しており、当日参加されるボランティアならびにボランティアコーディネーターを募集しています。
「雪」という自然の恵みがこれから先も当たり前に降り続くように。

日　　時：2 月 26 日（土）
活動内容：ごみ分別ナビゲート・ごみ袋配布（予定）
定員：30 名
申込方法：WEBサイトよりお申し込みください

お知らせ　事務所が変わります！

2006 年より旧豊水小学校の一室に事務所を構えていましたが、2011 年４月より一軒家の事務所へと移転します！改めて会員の皆様にはお知らせ致しますが、現在の事務所にほど近い場所となります。古い一軒家のため、２月上旬より内装から外装までリフォームする予定です。リフォーム（壁塗りなど）を行ってみたい方は、お手伝いスタッフを募集中ですのでご連絡ください。また、改装資金の寄付も受け付けております！

エココミュニティの作り方セミナー 第１弾

日　　時：２月 11 日（祝・金）　19:00～21:00
会　　場：ezorock 事務所　　参 加 費 ：無料
講　　師：坂本 純科氏 (NPO 法人 人まち育てI&I)
※参加ご希望の方は ezorock 事務局までご一報ください。

代表の小言

「お葬式」のススメ
～親子編～

「ＮＰＯ法人 葬送を考える市民の会」が主催する樹木葬墓地見学会に母と参加した。私は、通称「埋葬場所探しツアー」と半分冗談で言っている。少々驚かれるかもしれないが、私は、親子で「どんなお葬式にしたいか」という話をすることを積極的にススメている。

「お葬式」には、その人のこだわりがぎゅっと凝縮されており、どんな形式にするのかは、その人の人生を表現していると考えているためだ。お葬式の話をすることは、改めて大切な思い出や、伝えておきたかったことを、自然と受け継ぐことにつながる。このことは、親子の関係を改めて見直す良い機会になるのではないか。

日常の親孝行は難しいかもしれないが、最期くらいは、安心して眠っていただきたいものである。（草野竹史）

環境NGOezorock 会員向け情報誌 vol.7 2011.2
Rock The Life! ezorock

064-0808
札幌市中央区南８条西２丁目５市民活動スペース アウ･クル 3F 305号
TEL/FAX　011-562-0081　　E-mail　info@ezorock.org

4月から
事務所の住所が
変わります。

環境NGO
ezorock
www.ezorock.org

20110201

Rock The Life! ezorock

2011.2
vol.7

今月の写真
ROCK THE FARM～新琴似ふれあい農園～での１枚。新琴似の農園では ezorock の区画があり、毎日農園に来ている利用者さんが除草を手伝ってくれている様子です。農園にはいろんな利用者さんがいて、土の博士や電気屋さんや近所の幼稚園など、農園（畑）を通してつながるコミュニティづくりをしているのが ROCK THE FARM。
（写真に写っている人／黒Tシャツ：がっきー、白Tシャツ：いけちゃん）

ROCK THE FARM ～新琴似ふれあい農園～

畑でコミュニケーション

文章：北 寛子

最近か近年か分かりませんが、どうやら「コミュニティファーム」というものが増えてきているようです。
昨年、札幌市内４カ所にコミュニティファームの取り組みをコーディネートした団体があります。「NPO 法人 人まち育て I&I」という団体。英国でも広がりを見せているコミュニティファームをこの北海道でもやろう。野菜や花などを育てながら人と人が交流する「コミュニティ」をつくろうというのがねらいだそうです。ここでいう「コミュニティ」はある一定の区域という意味ではなく、趣味や目的など共通のものごとで集まる集団を意味しています。また、「ファーム」が畑というのはそのままなのですが、もう少し言うと人々が交流する場、つくっていくプロセスで学びがある場。という意味なんだそうです。

先日、この札幌市内でコミュニティファームやコミュニティガーデンを実施した４団体の「菜縁セミナー」という「事例報告会」を聞きに行ってきました。ちなみに、その４団体は市民団体や高齢者施設、大学など様々な人たちが実施しており、農業はほぼ初心者の人たちでした。
どの報告でも言っていたことは、「自分たちでつくる野菜は格別！」「施設に入っているおじいちゃんが元気になった！」とか、「こどもと一緒に収穫体験をした」とか。人と人がつながることができるコミュニティがあることで様々なきっかけをつくることができるんだ。ということを言っていました。それを聞いて、コミュニティファームとはただ野菜や花を育てる場ではなくて、それを通して人がつながる場所だと言うことを認識。

実は、ezorock にも ROCK THE FARM というプロジェクトチームがあります。ここは新琴似ふれあい農園という、市民農園のようなコミュニティファームのような農園です。大きな畑だった農地を 10m×10m に 170 ほどの区画に分けていろんな人が家庭菜園として野菜や花などの栽培を楽しんでいる場所です。ezorock はこの農園のオーナーさんから、一緒に農園の管理運営のお手伝いをしてくれないかと依頼を受け、昨年から始まりました。
管理運営はもちろんだけれど、それ以外に「利用者同士のコミュニケーションを生み出して欲しい」というのも依頼のひとつに挙げられました。
さて、コミュニケーションを生み出すとは…どんなことをしたらいいのか。考えた結果、まずは農園の " 現状を把握しよう " ということになりました。
まずは利用者と同じ目線に立てるように１つの区画を借り、作物の栽培に汗を流しつつ周りの区画に人たちに教わりながら畑を作っていきました。作業があまりないときは園内を歩き回り「こんにちはー」と声をかけて話しをしたり、ごみ拾いや自分たちの区画外の除草。また、アンケートを作りそこに書かれている質問をベースに利用者へのヒアリングも実施しました。そんなことをしていると徐々に私たちの存在も認知され始め、今回の表紙の写真にもなっているようにおじさんが私たちの区画の手入れをしてくれたり、ごまや落花生をみせてくれたりと一部ではありますが、ezorock と利用者の距離が畑を通して、近くなったように思えます。

ヒアリングでは、どうしてこの農園に来ているのか？というのも聞いていました。日頃のストレス発散やもう仕事をしていないから家にいるよりも畑に来た方が楽しいからとか、野菜は買うより育てた方が安いしおいしいし安心だから。など、理由は人によって様々です。「畑にきて、作物の手入れをするのはもちろんだけど、隣の区画の奥さんと話しながらやるのが楽しいのよ」という印象深い意見も。畑（農園）をきっかけに知り合った人との交流が、家族でも仕事でもないもう一つの居場所（コミュニティ）をつくり出していることを実感しました。
けれど、まだまだ出会っていない利用者もたくさんいて、自分たちの畑作業に追われ、現状を把握した！と言えるほどの成果を出せなかったのが事実です。

この ROCK THE FARM での取り組みは今年も実施が決定しています。今年は畑というフィールドで農園内のコミュニケーションを繋いでいく " しかけ " づくりをしていけたら良いなと思います。なにか良いアイディアがあれば是非教えてください。もちろん一緒に活動するのも大歓迎です。

ezorockers no.3

小さい一歩でもそれができた時に自信となりました

学生準備中
山崎 さおりさん (26)
あだ名：さおり／ ezorock歴：7年

❖ezorockに参加したきっかけと理由
友達に誘われて、お客さんとしてRSRに参加したことです。（ウルフルズ目当てでしたが…）「音楽が楽しめるだけじゃなくてね、空間が素敵で、出したごみも自分たちで分別して生活できるようにサポートしてくれる団体があるんだよ。」ということは、事前にきいていました。実際に様子をみて、来年はあのごみ箱の中にいよう！と決心。同年代の人が音楽のある中で本当に楽しそうにサポートしている姿に心ひかれたものです。

❖自分にとってのezorockとは？
つながりを感じれる場所。どんな社会に自分たちが住んでいきたいかなど考えたときに、人・自然・社会とのつながりを団体自体に感じる事が出来るのはとても魅力的であると思うのです。思いを伝える事や、わかりあえるように努力するのはエネルギーが必要ですが、小さい一歩でもそれができた時に自信となりました。近々の目標は、段取りを考えて行動できるようになること。周りの成長に刺激を受け、自分を高めていける環境があると思います。

❖将来の夢
小さいお店を開くこと。食べる事や食材を通して、老いも若きも関係なくほっこり過ごせる場所をその中で作れたらいいなと思います。ezorockでは、課題解決の仕方や十人十色の考え方を聴くことができるのでそれをいかしていきたいです。

この環境に身を置いて、自分自身を成長させたい！

北海学園大学 経営学部
成澤 勇祐さん (22)
あだ名：なり／ ezorock歴：1年半

❖ezorockに参加したきっかけと理由
何かボランティアをしたいと考えていた時に、RSRボランティアの募集を見て以前からRSRに興味があったため、まさに自分に合っていると感じ参加しました。自分と同年代の人や年下の人たちが大きな目的を持って動いていることを見て「自分でも何か役に立つことが出来るのではないか」とか、「やらないといけないような感覚」を覚えました。ezorockではそれができる環境があるという風に感じました。

❖自分にとってのezorockとは？
私にとってezorockとは学べる場所だと考えています。学校では学べないことや普通に生活して生きていく中では自分が知ることのないことに触れて、色々なものの見方、価値観を知ることが出来ます。それによって自分の中の考え方を大きく広げていくことが出来ます。会議でもさまざまな人たちの意見を聞くことが出来ますし、自由な意見・発言が出来るのも大きな魅力だと思います。

❖将来の夢
何も将来に不安を抱えずに済むような状況で平凡に生きることです。
平凡に生きることは簡単そうに見えて、実は非常に難しいことだと思います。ezorockで自分が置かれている環境変動の恐ろしさやお金を得る事の難しさ、そういったことを肌に感じ、改めて人生を難無く平凡に生きていければと思いました。

えぞ六（ろく）

気になり処

第三号

雪国で育ったくせに、初めて雪の事を真剣に考えてみた

四季折々の自然な美しさを表す言葉として、雪月花という言葉があります。
冬の雪、秋の月、春の花、これらが自然の美しさを表す言葉として千年以上も前に生まれた言葉です。日本でも多くの場所で雪、月、花の全てを見る事ができると思いますが、なかでも雪と言えば北海道、というくらい北海道での雪は生活にも密着した身近な存在ではないでしょうか。

２０１１年を迎え、年が明けた途端にたくさんの雪が降り積もった状況を見ると温暖化の影響なんて嘘のようですが、実は札幌の降雪量は平年以下となっています。※1 月20日現在（札幌管区気象台より）

雪かきや交通障害のような雪害が問題視されていますが、悪い面ばかりではなく、植物が凍結してしまうのを防ぐ断熱材としての役割のような良い効果を与える事もあります。
更に、日々の生活にも意外な形で効果をもたらすこともあるのではないかと感じています。
例えば、大雪が降った翌朝は「おはよう、雪すごいね」といった様な共通の話題が自然に生まれたり、寒い日が続けばみんなで鍋を食べるなど、意識はしていないものの「雪」という共通の試練のようなものが目に見えない心の結束力を高め、同じ試練を乗り越えた仲間意識や共通の達成感が芽生えているのではないかと思います。
街も雪化粧をして雰囲気が違うのはもちろん、雪の白さが街の灯りを反射し街全体が明るく見えてきます。

最近は寒さや雪の大変さは感じつつもこうした雪によるコミュニケーションが増えることが楽しみになり、大雪の時ほどちょっと楽しみが増えるようになりました。雪がある状況に慣れてしまうとマイナスのイメージを連想しやすいかもしれませんが、当たり前に降っている雪がこれからも変わらず降り続けてほしいものです。

文・よーへー